

岐阜市における
超短時間雇用創出事業

岐阜市超短時間ワーク応援センター

大原真須美

「超短時間雇用」とは？

東京大学先端科学技術研究センター
近藤武夫教授が提唱している雇用モデル

障害や疾患などある人々が、週に最短15分から、一般の企業・職場で、特定の職務を担当して働くワークスタイル

* 岐阜市では、「岐阜市超短時間ワーク応援センター」を設置し、企業・求職者の中間的支援を行っています。

超短時間雇用成功の6つの要件

- ① 採用前に、職務内容を明確に定義しておく
- ② 定義された特定の職務で、超短時間から働く
- ③ 職務遂行に本質的に必要なこと以外は求めない
- ④ 同じ職場でともに働く
- ⑤ 超短時間雇用を創出する地域システムがある
- ⑥ 積算型雇用率を独自に算出する

岐阜市の「ワークダイバシティ」の取り組み

ワークダイバシティ

全ての人に働くという居場所と出番をつくることが人々の幸せに繋がる

→多様で柔軟な働き方を実践する3つの新規事業を開始

①WORK!DIVERSITY実証化モデル事業

②超短時間雇用創出事業（R4.4～）

③テレワークを活用したショートタイム事業

岐阜市超短時間ワーク応援センター（令和4年4月1日開設）

（社会福祉法人舟伏 事業委託）

所在地：岐阜市学園町2丁目33番地

（岐阜県障がい者総合就労支援センター 内）

開所時間：平日 月～金、8：30～17：00

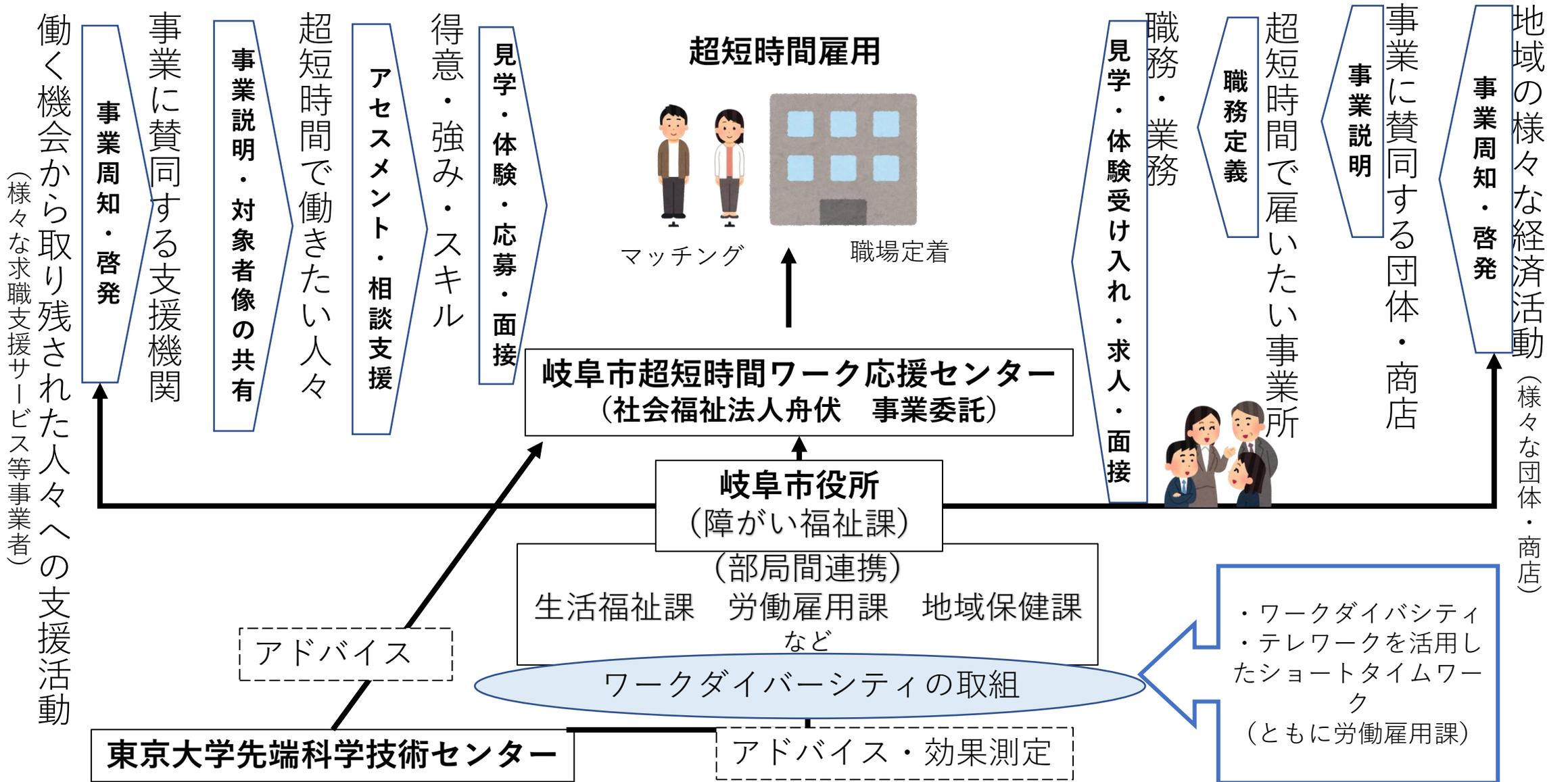
電話番号：058-215-8280

スタッフ：センター長、支援員2名（求職者対応、企業開拓・支援）

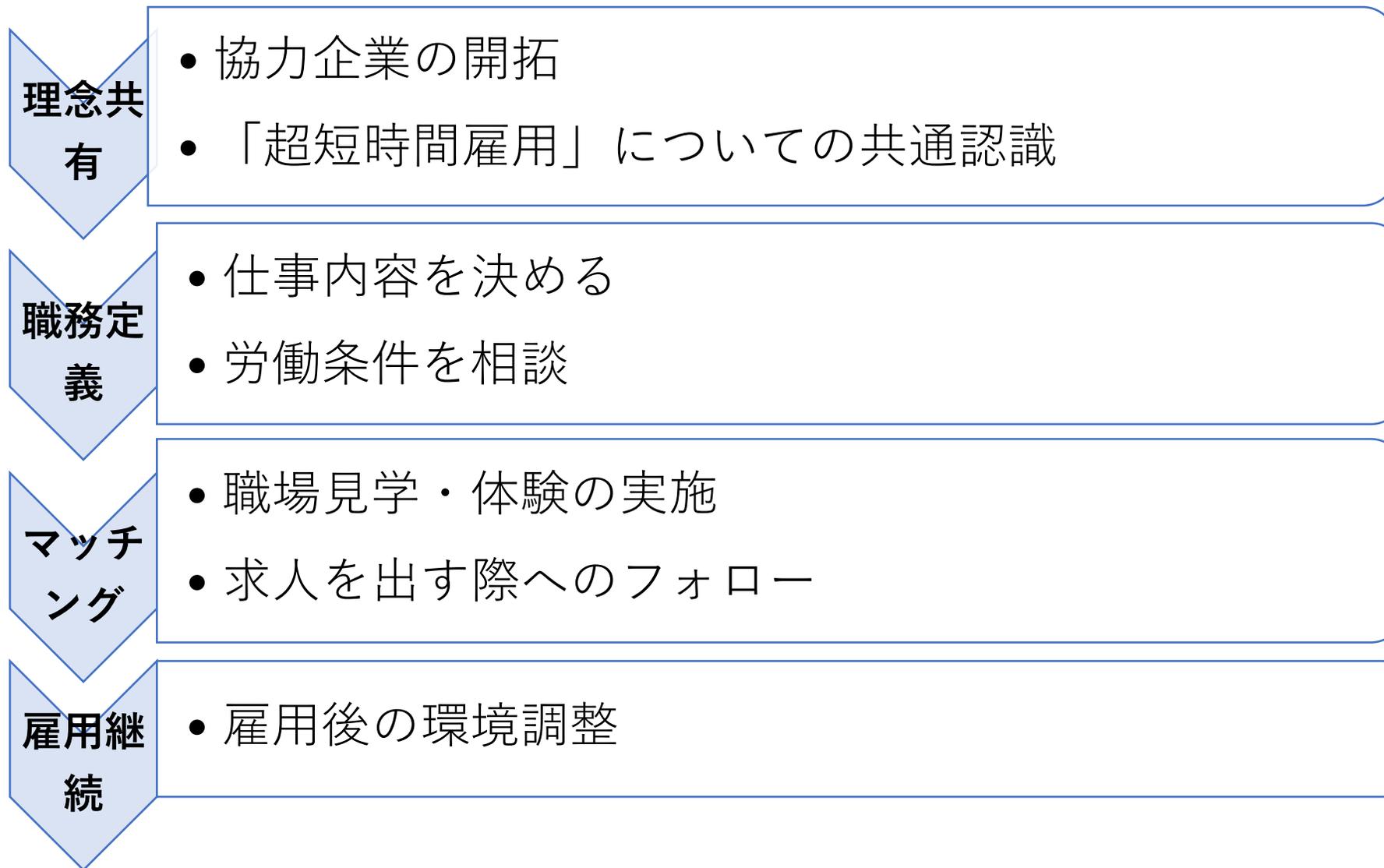
* 岐阜県障がい者総合就労支援センター：職業能力開発校、県立ハローワーク、障がい者就業・生活支援センター、障がい者雇用企業支援センター

岐阜市超短時間雇用創出事業の仕組み

東京大学先端科学技術センターIDEAプロジェクト「超短時間雇用モデル」参考



応援センターの機能1 企業への支援



応援センターの機能2

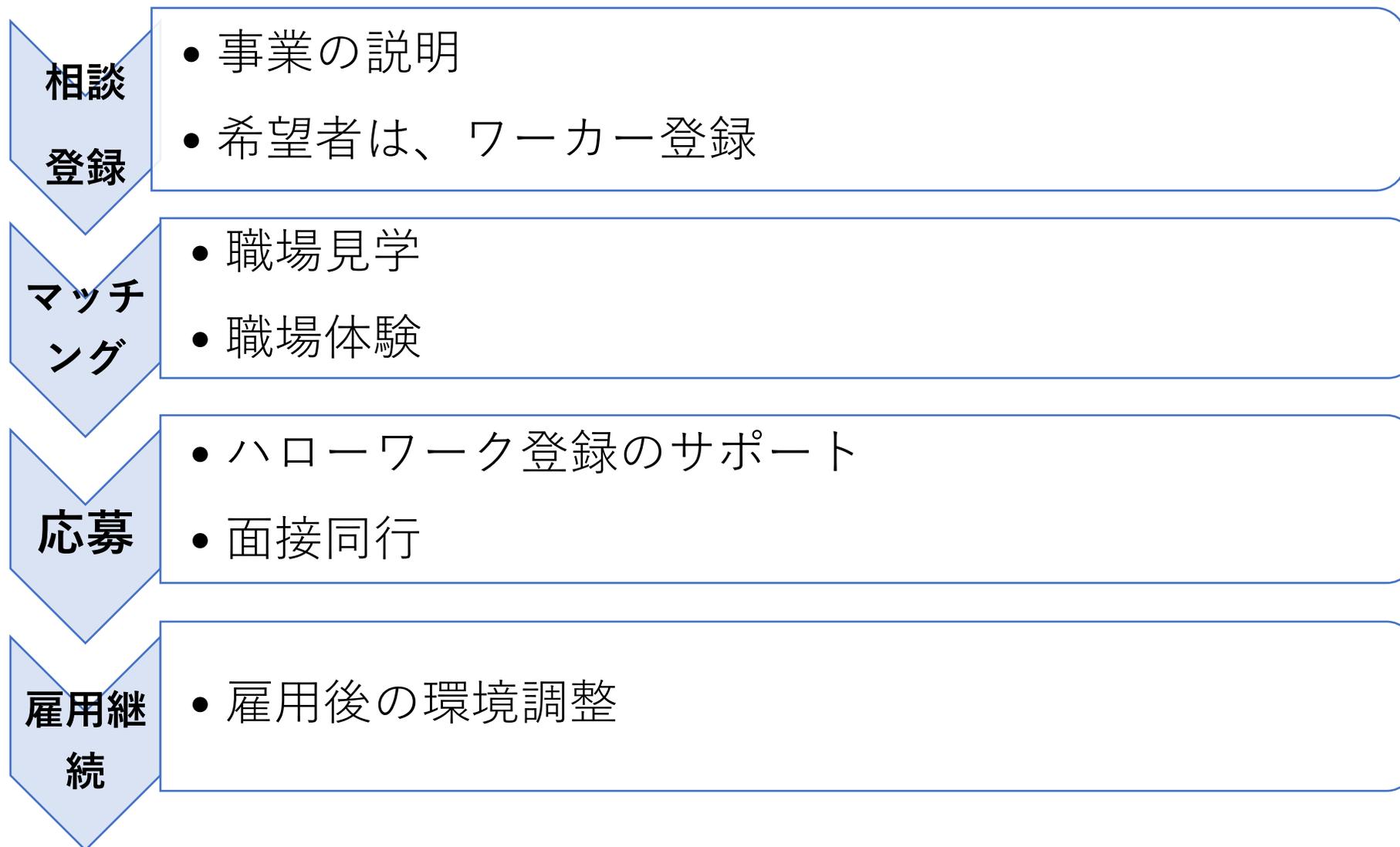
求職者への就職支援

対象者（令和4年度事業開始時）

- ・ 岐阜市在住の人
- ・ 障がい者やその疑いがある人で、障がい福祉サービスの就労系サービスを利用していない人
- ・ 難病のある人
- ・ 生活困窮者で、岐阜市生活・就労サポートセンターを利用し対象と判断された人

応援センターの機能 2

求職者への就職支援



令和4年度実績

- ワーカー登録者数 58人 (就職13件)

※備考：重複含む

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	高次脳機能障がい	難病	生活困窮	その他	合計(人)
総数	12	4	32	6	1	11	6	3	58

登録者のうち、手帳のある方：身体10人、療育3人、精神34人

- 企業事業説明（理念共有） 77社
- 職場見学 13件
- 職場体験 11件
- 雇用 13件

雇用事例紹介

インターネット通販事業者

職務内容：インターネット上での商品の出品作業（10商品）

時間：週2～3日、2時間

勤務形態：在宅勤務

求職ワーカー

属性：40代 女性

問い合わせ経路：県内の難病患者等への支援を行う機関の相談員

現状：難病（シェーグレン症候群）があり服薬通院継続中、子育て中

→仕事をしたいが、体調の波や体力が心配なので短時間で働きたい。
できれば通勤の負担のない自宅で仕事がしたい。

雇用事例紹介

建築設計事務所

職務：一定の情報を自治体のHPより情報収集、会社のデータベースへ入力

時間：週1日3時間

高齢者入所施設

職務：入居者の衣類の洗濯干し・たたみ、昼食後の食器の片付け

時間：週2日、2時間

ホテル

職務：シーツはがし（めくり）

時間：週3日、3時間

飲食店

職務：玉ねぎのみじん切り、フライの衣付け

時間：週2日、2時間

市役所

職務：ペットボトルのラベルはがし、机拭き

時間：週3日、1時間

各職場の、「専門のスタッフの人手が取られて困っている」、「なかなか忙しくて手が届いていない」といった課題のあったところを切り出しています。

まとめ

- 岐阜市にも、「超短時間ワーク応援センター」という障害や難病などが理由で短時間の雇用を希望する方と仕事をつなぐ（マッチングする）まちの仕組みができた。
- 今の「働くうえでの強み」をきちんとアセスメントすることがポイント。
- 求職者の雇用前、雇用継続を支える仕組みは、チーム支援。連携が取れるよう、ネットワークを広げていきたい。